

MOVE

March 26, 2019

No.
41



「大学で何か始めてみたい。だけど、両立できるかわからない。」

皆さん、大学生活に少なからず不安があるはず。

いやいや、そんなことはありません。

大学生活では色々なことにチャレンジできます。

……ということは、きっと何度も聞いていることでしょう。

「色々なことを両立している人も確かにいるけど、ごく一部じゃないの？」
去年、そういう思いがありながら、大学生活をスタートさせた先輩がいます。

その先輩が選んだ活動の1つが、ボランティア。

「それなら誰でもできるやん。」「ボランティアとか真面目そう。」

そんな声が聞こえてきそうです。

さて、1年後、彼女はどのような学生生活を送っているか、次のページで見てみましょう。

大学生は自由って、なんだろう。



森本 美悠さん

(英語・国際文化学科2年次)

『やりたいことがあれば、まず**1回やってみる**。』私が大学生生活で心がけていることです。大学生は**自由**って、よく言いますよね。それって、いつでも**新しい活動**に取り組めることだと思います。皆さんも興味のある活動・自分に合うと感じた活動を、いつでも好きなときにスタートできますよ。

ボランティアスタッフ、写真部、留学、教職課程、吹奏楽、アルバイト。私が現在継続していることです。この言葉だけを並べたら、「やってること多いな…」と感じる人がいるかもしれません。入学当初の私が今の自分を見たら、「忙しそうやけど大丈夫?」と心配すると思う、友人からも「大変そうだね。」と言われることもあります。ただ、自分の中で**いいバランス**を取っているからこそ、充実した学生生活を過ごせています。この中のひとつが欠けたとしたら、かなり違和感があります。あ!あとひとつ、**パソコンテイク**もあります。(パソコンテイクの詳細は最後のページに書かれています。)



ボランティアって、意識高い系の活動。真面目な人が多そうだし、堅苦しそう…。と思っていた私が、現在ボランティア活動をしています。きっかけは、**ボランティアスタッフ**の説明会に友達の付き添いで参加して、活動している先輩の声を聞けたから。「意外と楽しそう!」その直感で、入ることを決めました。ボランティアと聞くと、地域の清掃活動や募金活動をイメージする人が多いですが、実はそれだけではありません。色々な世代の人と**同じ目的意識**を持って関わることができて、**みんな笑顔**になれるのがボランティアのいいところ。私達ボランティアスタッフの活動内容、是非ツイッターで見てください。



活動するかを決める際に私が重要にしているのは、**先輩の体験談**です。面白いとか、やりがいがあるからこそ、先輩も活動を継続していると思います。その先輩の音が1番リアルです。私が取り組んでいる7つの活動の体験談でよければ、いつでもお話ししますよ! 聖ヨハネ館2階のボランティア活動支援室まで是非来てください。

「大学生生活、なんでもできるってきれいごと。」この冊子で色々な活動を両立させている先輩を見た、1年前の私の感想です。実際、こうして私の言葉を見ている新入生の中にも、そう思っている人が多いはず。大学では色々な活動を**両立**することができます。ただ、充実させるかどうかは自分次第。興味を持ったものには、**積極的にチャレンジ**してください。その中の候補に、ボランティアスタッフの活動を加えてもらえると嬉しいです。

森本さんが活動している
ボランティアスタッフの情報は
こちらから!
是非フォローしてください!



桃山学院大学 ボランティアスタッフ
@volunteerandrew



仲間の力になる、簡単な言葉がある。

桃 大では、**身体に障がいのある仲間**が、皆さんと同じように講義を受けています。皆さんも知っている通り、大学は一人ひとり時間割が異なり、講義によって教室が変わることはもちろん、建物が変わることもあります。

10分間の休憩で、車イスに乗っている仲間や目の見えない仲間が教室を移動する大変さは想像できるかと思います。それだけではなく、机の上の教科書を片付けること、扉を開閉すること、エレベーターのボタンを押すこと等があり、どうしても次の講義に間に合わないときがあります。

「彼らが講義に間に合うか心配だけど、どう声をかけていいかわからない。」
そんな声をよく聞きます。声をかける際は、この一言だけで大丈夫。

「何かお手伝いできること、ありませんか？」

特別な知識がなくても、皆さんの**サポートしたい気持ちと声をかける勇気**があれば、身体に障がいのある仲間の力になることができます。



ボランティア活動支援室が、障がいについて話す理由。



こ の冊子を発行しているボランティア活動支援室がこんな話をするのはなぜ？ 実は、『障がい』とも関係が深い部屋だからです。毎年、入学して間もない桃大生は、「障がいのある方と関わるボランティアを紹介してくれるでしょ？」と思われる方が多いです。もちろん、そのような活動も用意していますが、**身体に障がいのある桃大生の窓口**になっているのが、ボランティア活動支援室です。

サポートがスタートするのは、皆さんの声があってから。

ただ、障がいがあり大学でサポートを受けたい場合、皆さんからの声がなければ、どのようなことで困っているかがわかりません。少しでも困ったことや不安なことがあれば、いつでもお気軽にボランティア活動支援室までお越しください。



ボランティア活動支援室の場所について

- 場所…聖ヨハネ館2階(地上階)にあります。
- 時間…平日9時10分～16時40分です。

よくある相談内容

障がいがあるため授業で苦勞していることがある・使いにくい設備がある・試験で時間が足りるか不安など、早めに相談することをオススメします。

ノートとパソコンとあなたがいれば、音の代わりになる。

音のない中で講義を受けることを想像してみてください。「教科書や参考書を見たら、なんとかついていける。」そう思うかもしれませんが、では、大学ではどうなるでしょうか。

黒板やホワイトボードには、講義の**キーワード**のみ書く先生がいる。もちろん、**専門用語**も増えてくる。**映像**を見る講義だと、本当に言葉を想像するしかない。**テスト範囲**の情報、先生が話してもわからない。**時間割**も全員違うから、友人がいるとも限らない。周りが笑っていたり、先生が怒っている**理由**がわからない。

これは、聴覚に障がいのある桃大生が実際に感じたことです。大学の講義で大事になるのは、**先生の声**。その情報がないと、単位を修得するのは困難です。「それやと、めっちゃ不利になるやん。」そう思う人もいます。

そのため、桃大ではノートやパソコンを使って先生の話している言葉を伝える、『**ノートテイク・パソコンテイク**』のサポートがあります。この役割を担っているのは、実は桃大生の皆さんで、2人1組で活動します。



講義中の先生の言葉や、グループワーク中の周りの学生の言葉を短くまとめ、要約しながら伝えます。外国語の講義や、グループワークのように発言する人が多い講義に向いています。すべての情報を伝えることはできません。**2割~3割の情報**がわかるだけでも、聴覚に障がいのある仲間の力になります。



ノートテイクと基本は同じですが、大きな違いは、情報量の差。それでも、すべての情報を伝えることはできません。**5割~6割、早い人で7割の情報**を伝えることができます。先生の話し言葉が中心になる講義や、話すスピードが速い先生の講義に向いています。もちろん、タイピング力も自然と速くなります。



「そんなこと、いきなりできない。」もちろん、はじめからできる人なんていません。そのために定期的に**講習会**を開催しています。

「私達も講義があるから、力になれないんじゃない？」あなたの空き時間にも、聴覚に障がいのある仲間の講義があります。その時間を有効的に、仲間のために使える活動です。1つの講義を担当すれば**1,425円**をお支払いします。

仲間の力になれるのはもちろん、先生の話している言葉をうまくまとめるコツをつかむことができ、**ノートの取り方**も自然と上達します。また、そのことを**就職活動**でアピールすることもできます。はじめは不安で当たり前。あなたの力を貸してください。講習会の情報はM-Portで配信します。質問があれば、いつでもボランティア活動支援室までお越しください。